

## 『花の日』の訪問を終えて

園長 三宅悦子

梅雨に入りました。

それぞれのご家庭からお届け頂きました飛び切りの花々を飾って花の日(子どもの日)の礼拝を守りました。色とりどりのガーベラ、ヒマワリ、バラ、カーネーション、トルコキキョウ、ラン、シャクヤク、ユリ、アジサイなどなど、手に持って来る子ども達も少し誇らしげでした。

花の日(子どもの日)には、イエスの周囲に子ども達が集まって来た聖書の話(マタイによる福音書19章13~15節)を致しました。「イエスさま、大好き」と言って、手をつないだり、抱きついたりしていたのでしょう。しかし、弟子達は、「子どもをイエスさまのところに連れて来てはいけません」と叱ったと記されています。その弟子たちに、イエスは「これを見て憤り」そして「子ども達をわたしの所に連れて来なさい。妨げてはならない。」と言われました。続けて、「神の国は、このような者たちのものである。はっきり言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入る事はできない。」と言われ、そして「子ども達を抱き上げ、手を置いて祝福された。」という物語です。

子ども達は、何かしてもらいたいから、イエスのところに寄って来たのではなく、イエスのところに居れば何かいいことがあると思っている訳でもありません。ただ、「イエスさま、大好き」それだけなのです。子ども達は、少しかまってもらったり、つき合ってもらったりすると、「大好き」になります。自分の事を好きでいてくれる人の事がわかります。そして、「大好きな人に」身を委ねる事ができます。信頼し私を抱きかかえてくれる人の事は、わかるのです。そのように無条件に身を委ねる事ができる。イエスに身を委ねる事ができる者こそが「子どものように神の国を受け入れる者」であり、イエスとつながる者であると語られています。ただ単純に、もたれかかったり、身を委ねたりする事ができる安心感の中に、本当の信頼感があると教えられます。

疑わず、自分を主張せず身を委ねる関係を、私達も子ども達から学びたいと願います。

私事ですが、母親の長い入院生活の中で、子どもの声がある、子どもが周囲をウロウロしている、それだけでどんなに生きる力や、元気をもらう事になったかと実感しています。

子ども達がそこに居るだけで、いのちのエネルギーが周囲を元気にします。

花の日(子どもの日)の礼拝をささげて、幼稚園のご近所や井田病院、住吉ホーム、お世話になっている園医さんや歯科医さんを、お尋ねする事で、子ども達の元気をお届けする事ができます。美しい花に負けないくらいの、子ども達の笑顔が、いのちのエネルギーを届けます。元気のエネルギーの源となる子ども達がいつも笑顔でいられるために、私達も一緒に力を合わせて、子ども達の笑顔を守って行きたいと思います。

こんなに慕い、こんなに頼りにしてくれる子ども達が、無条件に身を委ね、大好きだからまわりつく、その姿こそが、最も神様が喜ばれる姿で、私達に望まれている姿である。ならば、私達も、子ども達の姿に学んで行きましょう。やたらに尖ったり、つんつんしたりした口調や、身のこなしにならないように、子ども達の無心の信頼に日々教えられる者でありたいと感じます。

花の日(子どもの日)と感謝祭の年に2回の事ですが、地域の方々と交わりができる大切な日です。花や果物を、店先やお家で考えながら、お届け頂いて、その花や果物が知らない方々を喜びに包む事ができる時を、これからも大切に育んで行きたいと考えます。皆様にご協力を頂き、本当にありがとうございました。そして、子ども達のかげがえのない笑顔に心から感謝致します。

